

「学ぶ力」	
実態	課題
これまでの 成果	課題
<p>◇児童アンケートの結果から、「先生や友達の話をしっかり聞くことができる」という質問に対して肯定的な回答が多い。札幌市の共通指標「分からないことがあったときに、友達や先生に聞くようにしている」という児童が多く、人と関わり合いながら、自ら学ぼうとする意識が高い傾向が見られる。</p> <p>◇令和 8 年度の学校教育の重点目標として、「未来社会を創造する人間性豊かな子どもの育成」の実現に向けて教育活動を行ってきた成果と言える。</p>	<p>◇学校評価の児童アンケートでは、「考えたことや思ったことをしっかりと話すことができた」項目において、数年前から 80% 以下が続いている。まだ十分に自信をもちきれていない様子があり、継続した支援が必要である。</p> <p>◇学校評価の保護者アンケートの結果から、保護者は子どもが「家庭学習に進んで取り組む」力が付くことを願っていることが分かる。</p> <p>◇札幌市の共通指標から「自分が思っていることや感じていることを人に伝える」「自分の意見を進んで発言する」ことに対して、苦手意識をもつ子どもが多いと考えられる。</p>
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く相互承認の感度〉の現状と課題	
<p>◇札幌市の共通指標の「人のよいところを見付けようとしている」「人の役に立つ人間になりたい」という項目について、多くの児童が肯定的な回答をしている。異学年交流や行事での取組の中で、他学年のよさに目を向ける機会を大切にしてきた成果と考えられる。一方で「人の良いところを見付けようとしている」という項目について、やや低い傾向が見られる。自己肯定感を高める教師の価値付けや子ども同士の認め合いの場を大切にしていこう。</p>	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

子ども一人一人が、自ら考え、学び合おうとする力

取組	AAR サイクルの視点で捉え直した 課題探究的な学習の推進	さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づく 自主的な活動の充実
取組	<p>◇研究副主題「子どもの声を大切にする日常実践の改善」の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「できそう」「やってみよう」という子どもの意欲を引き出し、主体的な学びがつながる単元構成。 ・課題に対する自分の考えをもち、仲間と共有する場の設定。 ・「できた」「学んでよかった」と学びの手応えを実感させる教師の関わり。 ・言葉や話す力、聞く力、既習、新たな学びなど、様々なものとの「つながり」を大切に、子ども一人一人しっかりと考えを創っていく学習過程を構築する。 ・ICT を用いた導入の工夫。 ・すべての児童が学びに向かうことができるような足場の支援。 <p style="text-align: center;"> </p>	<p>◇挨拶・廊下歩行の推進（全校朝会での目標発表）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校で取り組む「あいさつ廊下歩行強化歩 Day」「あいさつリレー」 <p>◇異学年交流の中で生まれる相手意識（なかよし活動）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なかよし委員会が中心となり、低・中・高学年が自分の役割を果たす。→下級生を思う優しさ・上級生への憧れ <p>◇自分たちの生活や活動を発信する場の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内放送やポスターを使っての委員会からのお知らせ <p>◇自分たち生活を振り返る場の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生活のめあて振り返り習慣」（毎学期半ばに設定）

〈本プログラムの実行に向けて〉

